

令和 7 年度 精神障害者支援センター相談事業報告書

1. 総括

きいてネットにおいて、とくに精神障害や発達障害についての専門的な知識や対応が求められる相談に応じるほか、他の相談支援事業所との連携や後方支援を意識して相談支援を行った。

(1) 個別の相談支援の傾向

- ① 毎月や数か月に一回程度の頻度で関わる利用者が多数を占める一方で、頻回に支援を行う利用者も一定いる。相談回数が多い上位 10 名が全相談件数の半分を占めている。相談回数が多い利用者は複合的な背景があり、多職種多機関で関わることが大半である。
- ② 複合的な背景を汎化した場合：精神障害があり身体的な疾患のために入退院を繰り返している例、中山間部で困窮して一人暮らしをしている例、本人、こども、親の三世代で障害者手帳を所持している例、何らかのトラウマが背景にあり支援者が関係構築に苦慮する例、高齢者夫婦に一人以上のひきこもり状態の子が暮らす例
- ③ 連携が多い関係機関 ①民間事業者（福祉）：居宅介護支援事業所、指定特定相談支援事業所、②民間事業者（医療）：精神科病院、精神科訪問看護ステーション、②行政：障害福祉担当課、生活保護担当課、地域包括支援センター、保健所、生活困窮者支援、保護観察所など

(2) 個別の相談支援において若年層で感じる課題

- ① 若年層（10 代、20 代）の相談では、通信制の高校に在学しているが不登校、親が精神疾患の事例、市販薬依存の事例が一定数ある。最低限の生活を送るための支援ではなく、アイデンティティ、進路や居場所についての相談であること多く、従来の障害福祉サービス等ではニーズを解決しづらいケースが大半である。
- ② 通信制高校や不登校のこどもが精神科病院（とくに児童思春期病棟）に入院するケースがみられる。成人であれば、退院後の過ごし方としてデイケアや就労系施設などがあり、家庭にて一人で過ごせる人が多数である。こどもの場合、退院後の社会資源が十分でなく、一人で過ごしづらい年齢のもあり、親が仕事を休まなければならない例もある。

(3) 地域の相談支援

- ① いくつかの精神科病院において退院に向けたプログラムに関与。病院地域連携と入院患者への相談支援事業所の周知を兼ねて参加している。
- ② 地域移行関係者連絡会の事務局を担当し、2 か月に 1 回開催した。令和 8 年度から障害者入所施設での地域生活への意向確認の体制整備が義務付けられることに伴い、ワーキンググループを設けた。
- ③ 主任相談支援専門員として、三田市相談支援事業所連絡会でのスーパーバイズに協力している他、阪神北圏域の主任の連絡会に参加している。

(4) 地域づくり

- ① 地域啓発ではワークショップ「対処のわかちあいの場」を実施した。「わかちあいの場」はメンタルヘルススキルの向上を目的として企画しているが、居場所としての側面が色濃い。
- ② 「ふだんからの防災～精神障害のある人の経験から学びあう」のワークショップを実施した（予定）
- ③ 居場所の活動（「ゆるり」、「はじまりの街」）を継続して行った。

2. 相談支援

(1) 相談者数

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
新規	4	5	6	6	2	3	3	2	3				34
実人数	34	32	34	33	24	28	37	24	36				105
障害者	34	31	33	32	23	28	37	24	36				104
障害児	0	1	1	1	1	0	0	0	0				1
身体	0	1	1	0	0	0	0	0	0				1
重心	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
知的	2	2	6	4	3	6	5	2	5				18
精神	24	22	22	23	15	14	24	18	24				63
発達	6	5	1	0	2	6	4	2	5				13
高次脳	0	0	1	1	1	0	0	0	0				1
難病	0	0	1	0	0	0	0	0	0				1
その他	2	1	2	4	2	2	4	2	2				7
延べ件数	116	89	73	84	80	70	88	51	90				741

(2) 相談形態

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
訪問	5	9	2	7	4	3	2	3	3				38
来所	15	12	7	13	7	9	13	8	11				95
同行	1	4	0	0	0	0	2	3	2				12
電話	35	20	19	30	16	27	28	15	29				209
メール	13	0	0	0	0	0	0	0	0				13
支援会議	0	0	0	1	1	0	3	0	0				5
関係機関	47	44	45	33	52	41	40	22	45				369
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
合計	116	89	73	84	80	70	88	51	90				741

(3) 相談内容

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
福祉サービス	41	32	28	48	36	40	54	34	51				364
障害理解	3	4	2	5	4	5	7	4	6				40
健康医療	30	37	31	27	36	28	37	20	37				283
不安解消	8	5	3	14	4	5	6	6	8				59
保育教育	8	3	6	3	5	0	5	0	2				32
家族関係	32	17	20	18	29	15	22	12	21				186
家計経済	28	9	5	12	9	9	9	1	4				86
生活技術	22	14	7	14	19	15	13	7	15				126
就労	5	4	5	9	4	2	9	1	5				44
社会参加	3	4	4	6	3	2	8	7	4				41
権利擁護	5	0	0	0	0	0	0	0	0				5
その他	8	2	0	1	1	0	0	2	3				17
合計	193	131	111	157	150	151	170	94	156				1283

(4) 相談支援に関する連携会議への出席

- ・三田市相談支援事業所連絡会
- ・阪神北圏域主任相談支援専門員定例会
- ・阪神北圏域相談支援専門員定例会
- ・阪神北圏域精神障害者地域移行・地域定着支援管内連絡会

(5) 精神科病院との連携強化を目的としたプログラム参加

向陽病院	5/29, 6/24, 7/24, 8/27, 9/18, 10/29, 11/20, 12/17, 1/21, 2/17
兵庫県立ひょうごこころの医療センター	5/27, 6/10, 6/24, 7/8, 7/22, 8/26, 12/23, 1/13, 1/27, 2/10

3. 自立支援協議会

(1) 地域移行関係者連絡会
別紙参照のこと。

5. 普及啓発活動

(1) 普及啓発

1) 「わかちあいの場」

WRAP（元気回復行動プラン）を「いまいちの時、ピンチの時、いまの調子を保ちたいとき、みんなどうしているだろう？わかちあいの場」（対処のわかちあいの場）を実施した。精神的疾患とのつきあい方（サインや対処行動）についての相談が多いことから、アメリカの精神障害当事者が開発した WRAP（元気回復行動プラン）を参考にワークショップを行った。以前より心理療法などの研修を専門家による講義で行ってきたが、講義だけでは参加者が実践に結びづらくワークショップ形式での企画とした。ひきこもりがちな人の第一歩として活用される事例が多く、居場所としての役割が強くなっている。

・開催状況：4/17(木)、5/23(金)、6/20(金)、7/17(木)、8/8(金)、9/29(月)、10/10(金)、11/28(金)、12/16(火)、1/27(火)、2/27(金)、3/24(火)（予定）

2) ASD 特性を背景とするひきこもり状態にある人の家族支援クローバー-CRAFT プログラム

兵庫県発達障害者支援センター、生活安心サポートセンター、就業支援センターなどと協力し、自閉スペクトラム症を背景に持つひきこもり状態にある人の家族支援として CRAFT プログラムを実施した。

令和7年度開催分

第1回	12/12	CRAFTをはじめよう
第2回	12/19	問題行動の分析と対応
第3回	1/9	コミュニケーションのコツを知ろう
第4回	1/23	上手に褒めて望ましい行動を増やす
第5回	2/6	意図しない助長坑道を止め、望ましい行動を増やす
第6回	2/20	家族自身の生活を豊かにするために

令和6年度開催分受講者対象

第7回	7/4	フォローアップ
-----	-----	---------

3) ふだんからの防災～精神障害のある人の経験から学びあう（予定）

- ・日時：3/21(土) 13:30～15:30
- ・場所：総合福祉保健センター第3・4会議室
- ・参加者：20名
- ・一般社団法人精神障害当事者会ポルケ作成の映像資料を活用
- ・開催目的：精神障害のある人の被災経験（薬の確保や精神的不安）に基づき、インクルーシブ防災を学びます。台風や震災など被災経験のある精神障害当事者や支援者の声を反映した動画教材を活用

用し、障害のある人が災害時に直面しやすい困難や必要な支援を想定、ワークショップ形式で参加者自身が自分の防災計画を考えます

(2) 居場所などの活動

1) ゆるり

※基幹相談支援センター報告書参照

2) はじまりの街

8050 問題に象徴されるように中高年のひきこもりの課題を背景に、中高年でも話しやすいアニメやゲームを題材に居場所スペースを開催している。ウッディ・カルチャー地区ふれあい活動推進協議会に会場の協力をえて、地域住人の下村氏やボランティア、三田市社会福祉協議会・ウッディ・カルチャー地区地域福祉支援員、精神障害者支援センターの相談員が運営に協力。2ヶ月に1回程度、夕方に2時間程度の開催。アニメやゲームについての雑談が中心となっている。

今年度、三田市及び近隣におけるひきこもり支援ネットワーク構築を目的として、はじまりの街活動者2名が「ひきこもり支援情報交換会」の設立に準備会の段階から関与している。

・『はじまりの街』開催状況：4/1(第29回)、6/6(第30回)、8/1(第31回)、10/3(第32回)、12/5(第33回)、2/6(第34回) ※すべて金曜日の開催

・『はじまりの街』(U-18) 開催日程：5/10(第15回)、7/12(第16回)、9/13(第17回)、11/1(第18回)、1/10(第19回)、3/14(第20回)

5. 社会活動・研修活動（研修・講習会など）

(1) 相談支援の質の向上のために参加した研修

- ・4/26 統合失調症学会（大阪府高槻市）
- ・5/17-18 全国コミュニティメンタルヘルスアウトリーチ研究会全国大会（東京都世田谷区）
- ・5/31 兵庫県相談支援ネットワーク総会記念講演会（加古川市）
- ・6/7-8 こころのバリエーション研究会総会（東京都港区）
- ・8/10 近畿ピアスタッフの集い 玉木さん講演会（神戸市）
- ・9/19-20 チイクラフォーラム（埼玉県さいたま市）
- ・10/16 日本精神科医学会学術大会（愛媛県松山市）
- ・10/25-26 日本精神障害者リハビリテーション学会札幌大会（北海道札幌市）
- ・11/8 認定 NPO 大阪精神医療人権センター設立記念講演会（大阪市）
- ・2/8 近畿ピアスタッフの集い ヒューマンライブラリ（神戸市）

(2) 主な社会活動

○県内

- ・10/12 宝塚市社会福祉協議会「登録ピアサポーター養成研修」講師
- ・12/10 川西市自立支援協議会精神部会 講師
- ・12/20 丹波篠山市地域活動支援センター 講師
- ・1/26 加東保健所「北播磨圏域ピアサポーター活動啓発講座」講師

・兵庫県障害者ピアサポート研修企画委員会 委員

○厚生労働省等

・厚生労働省「障害者ピアサポート研修指導者養成研修」検討委員 講師

・厚生労働科学研究「障害者ピアサポート研修の実施内容の検証及び更なる効果的な実施方法の確立に向けた研究」（代表研究者：岩崎香）研究協力者

(3)職能団体や学会

兵庫県相談支援ネットワーク、日本精神障害者リハビリテーション学会、全国地域で暮らそうネットワーク、日本精神保健福祉士会、日本社会福祉士会、日本メンタルヘルスピアサポート専門員研修機構、日本ピアスタッフ協会、